

1、はじめに。

まず始めに、芸術とはなんのでしょうか。今現在、世界中にその枠組みの中に位置する作品が数多く存在しているためそれを見て明確にこれが芸術、というものを言い切ることは難しいですが、あえてその問いに対して答えるとするならば、私は芸術とは一種のコミュニケーションであると考えている。

私達は大抵の場合、自分の意思を伝えるのに「会話」の手段をとるだろう。しかしながら、それとは別に私達は道具を使うなどの手段を用いることによって相手に自分の意思を伝えることができています。なぜ会話という手段があるのにも関わらず別の手段による意思の疎通手段が存在するのだろうか。それは、このような視界による情報の伝達が言葉による情報の伝達では出来ないことを行うことが出来るからであると私は考える。

2、「聞く」と「見る」

言葉では伝わらない情報。それを伝えられる手段はいくつかある。例えば、情景を相手に伝えようとした場合。単純に大雑把な情報を伝えるだけであれば会話、および言葉だけで事足りるが、それでは見た景観の具体的なところは相手に伝えきれない。それを伝える、または伝えきれない情報を伝えるための補助として動きや芸術があるのであると考える。

また、例えば「色彩」を言葉で伝えようとするならばどのように相手に伝わるだろうか。赤や青、黄色といった基本となる色の他にも数多くの色を表す言葉がありとても細くそれが何色だったか伝えることが出来るだろう。しかしながら、自然を指す場合、純粋な一色だけの景観は存在しない。そして複数の色の表現を正確に表す言葉は無い。

これらは色彩の情報以外にも造形に関わる事で同じことが言えるだろう。

それを相手に伝えようとするならば言葉以外の手段を用いる必要があり、その手段こそが一般的に「芸術」と呼ばれるものであると考える。

3.結論

自然は多種多様な色彩、造形で形作られている。それらを相手に伝えるには言葉だけでは足りず、あらゆる手段を模索した適切な手段でなければならないと私は考える。